

ゴールデンウィークの桜の開花予想

2013年の桜の開花前線は、3月は猛スピードで日本列島を北上し、各地の桜の開花日と満開日は記録的に早くなりました。福岡、大分、宮崎、鹿児島、鳥取、舞鶴、東京は1953年に桜の開花日の統計を取り始めて以来、最も早い開花となり、満開日も九州各地や鳥取、和歌山、横浜、銚子などで最早記録となりました。今年の桜がかなり早く咲いた理由は、3月が記録的に暖かったことが桜の開花に大きく影響したためです。

一方、4月に入り、桜前線はスピー



ドを緩めて日本列島を北上中です。ゴールデンウィークは、東北地方の北部の桜の名所では桜が見ごろになるでしょう。北海道の函館などでも桜が咲き始めそうです。これらの地域では、桜の開花日と満開日は、いつもの年とほぼ同じ頃になると予想しています。

日本気象協会では、各地の桜開花予想を天気総合ポータルサイト「tenki.jp (http://tenki.jp)」と携帯公式サイト「気象協会晴曇雨」で提供しています。最新の予想をご確認頂き、北国へのお花見旅行の計画にお役立て下さい。

(日本気象協会 小田 美穂)

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

理事長 : 大島慎子(筑波学院大学学長)
顧問 : 丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長 : 岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長 : 杉行夫(理事)、事務局次長: 堀り(理事)
支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、

【団体会員】(2013年04月15日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドルックス、(株)アルビオン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アパース(株)、(株)サマサバサジャパンリミテッド、三協立山(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ヒューシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)タイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成有楽不動産(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカッツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オース・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、羽田旅客サービス(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロクジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルモロリタ、前田建設工業(株)、(株)ホテルマルックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんファイナル、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：大島慎子(JN協会理事長)

編集長：加納 隆(JN協会副理事長)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

あの大地震、津波、原発事故という三重苦に、2年経ったいまも東北6県は厳しい影響を受け続けている。観光庁の調べでは、昨年東北6県に宿泊した人の数は、地震前の2010年に比べ、8割強にとどまっている。全国的にみると1.6%減であり、東北6県を除いた数字で比較してみると0.2%だが増えている。こんな中でも、県によってバラツキがみられる。中尊寺の世界遺産が決まった岩手県は増える傾向にあり、松島を抱える宮城県も健闘している。一方、福島県は大河ドラマ「八重の桜」効果で挽回をはかろうとしているが、福島原発の風評被害が大きいようで修学旅行も敬遠される傾向にあるという。災害復旧のためのバス旅行募集も、取りやめるバス会社相次いでいる。

私たち J N 協会も、何かできることはないか、新しく顧問にお迎えする丸山、本保ご両氏のご指導も得て、考えてみたいものだ。とりあえず、この情報紙も、できるだけ東北関連記事を載せたいと思う。(加納)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW
観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第88号 発行日2013年04月15日

Contents

JN協会の昨年度決算、甲府フォーラム開く	1
顧問に予定の丸山、本保氏が語る	2
霞が関情報(JR九州社長)、鉄道と観光	3
アメリカこぼれ話、シドニーの牡蠣	4
観光振興に燃える甲府、COLUMN	5
城下町と観光(小浜城)、NEWSPOT	6
提言(デマケのこと)、観光立国セミナー	7
気象と天気(桜前線)、編集後記	8



3月25日 甲府駅北口にオープンした「甲州夢小路」

J N協会の25年度予算、事業計画

理事会で内定、5月24日の総会で決定へ

J A P A N N O W観光情報協会は4月8日、理事会を開き、24年度の決算、25年度の事業計画、予算を審議、内定した。5月24日(金)に開く第12回通常総会に諮る。

事業計画の主な内容は、

- ① いっそう会員増強に取り組む
- ② 講演会の随時開催、研究会(観光立国セミナー)を原則月1回開く
- ③ J N情報紙、ホームページの拡充

一などであり、予算総額は約870万円(右欄に概略を掲載)

この日は、大島慎子理事長が急きょ欠席となり、メッセージ参加の形となった。大島理事長は「ウェブの充実やサイト利用で積極的に情報発信を行い、会員の増強にも役立つイベントなどの開催も考えたい。企画会議を頻繁に開き、いろいろな魅力ある行事を開発していきたい」などの提案を行った。

なお、この日の理事会で、かつて J N 協会の副理事長だった丸山博・空港施設顧問(国土交通省鉄道局長、同省審議官＝次官同格、前のフィンランド大使)と本保芳明・首都大学東京教授(初代観光庁長官)を顧問として迎えることを決めた。総会后、特別顧問になっていただく方向。

総会では、議事終了後、須田寛 J N 協会副理事長が最近出版した「街道観光」を無料配布するとともに、これに関する講話を行う。このあと懇親会を開く予定。

「観光立国フォーラムin甲府」を開催

リニア中央新幹線に備えて

J A P A N N O W観光情報協会(大島慎子理事長)は、甲府北ロータリークラブ(鈴木信行会長)と N P O 法人甲府駅北口まちづくり委員会とともに、3月19日夕「観光立国フォーラムin甲府」を開催した。このなかで、J N 協会の副理事長、中部支部長である須田寛・東海旅客鉄道相談役が「高速鉄道と観光」と題して講演(概要は2面)。リニア中央新幹線の着工を控え、会場の甲府市北口の山梨県立図書館イベントスペースが満員となる約250名が参加した。

主催者を代表して鈴木会長が「甲府は高齢化が進み衰退に向かいかねない。地域振興に努力しなくてはならないが、それには住民一人一人が街づくりに取り組むことが欠かせない。その先頭に立つ」と決意を述べた。続いて来賓の宮島雅展・甲府市長はリニア新幹線への期待と事業主体の J R 東海への要望を述べた。

J N協会25年度予算案(概略) 単位：千円

収入		支出	
前年度より繰越	3,945	事業費(研究会、JN紙	
会費収入	3,680	発行など)	1,600
寄付金	800	賃借料	1,600
事業収入	300	交通費	1,600
		その他	1,025
		来期繰越	2,900
合計	8,725	合計	8,725

フィンランドにみる観光振興

元国土交通省審議官 丸山 博（J N協会顧問予定）



昨年9月フィンランド（以下「芬蘭」と略す）での3年余りの勤務（大使一編集部注）を終え帰国した。帰国のご挨拶かたがた、訪日観光に重点を置いて芬蘭のお話をしたい。

芬蘭は、欧州の最北東に位置する人口530万人の森と湖の国である。一見日本との関係は薄そうに見えるが、日露戦争での日本の勝利が芬蘭のロシアからの独立のきっかけとなったこともあり、親日的な国柄である。独立後、芬蘭が最初にアジアの国に置いた大使館は在日大使館であった。私が赴任した2009年には日芬国交樹立90周年を祝う様々な事業が催されていたが、芬人の日本の文化、料理、漫画などのポップカルチャーに対する関心の高さには驚かされた。

現在、成田、関西、中部の3空港とヘルシンキ空港とは毎日直行便で結ばれている。この日芬間週21便の輸送力は、ヘルシンキ空港が欧亜の最短のゲートウェーとなっていることを考慮したとしても、人口500万あまりの国としては破格のものである。芬人の訪日客数は、年間2.5万人に達し、国民の200人に1人が訪日していることになる。人口が25倍の日本からの訪芬客が15万人に満たない程だから、人口当たりの芬蘭からの訪日客がいかに多いかがわかる。

芬蘭は送客市場としては小さい。だが、トヨタは、芬蘭を欧州市場への橋頭堡として活用、今日の欧州市場での地位を確立した。芬蘭を直航便の就航していない欧州諸国の日本への玄関口として活用するという発想があってもいいのではないか。

住民参加型のまちづくりを期待

リニア中央新幹線に備えて

須田寛・東海旅客鉄道相談役

須田氏は、まず新幹線開通がもたらした地域振興への効果について、東海道から九州新幹線までの周辺地域での入り込み客の増加ぶりを図表で説明。なかでも観光面でのプラスを岡山県の例を挙げて詳しく述べた。県、岡山市、倉敷市は、開通前から準備を進め、新幹線開通直後に急増した観光客が、今でもなお高原状態を維持していることを丹念に説明した。

リニア新幹線に関しては、東京一名古屋間が2027年開通の予定で、甲府市の南側に「駅」ができるはず。始発駅の東京・品川から20分しかかからない。東京から新宿への時間と同じだ。

これは、甲府を起点にして八ヶ岳高原、富士山など周辺の観光資源がフルに活用できることを意味する。関東、関西、中部圏をトライアングルに結ぶ広域観光が期待できるということだ。

そのためには、甲府市南のリニア駅を単なる通過駅ではなく、周りを観光拠点地域にする地元の努力が欠かせない。岡山の例を挙げて、カギは、ここを起点とするバス、鉄道などの第二次交通網の整備と宿泊施設の充実、訪れた観光客に満足してもらえるようなホスピタリティー（おもてなしの心）が大切で、できるだけ早めに準備をしなくてはならない。

それも、行政任せや観光関係者に任せてしまってはダメで、住民参加型の「まちづくり」を急ぐことが不可欠である、と強調した。

観光振興に産官学一体の取り組みを！

J N協会顧問就任にあたって

初代観光庁長官 本保 芳明



JN観光情報協会顧問の就任に当たり、ご挨拶申し上げます。私は、現在首都大学東京で、観光政策について教えております。所属する観光コースは、2008年開設の小世帯ですが、日本観光振興協会の寄付講座の授業で、本学最大の集客力を誇っています。

観光に関する関心の強さを背景とするものであり、2003年の小泉首相の施政方針演説をスタートとする観光立国10年で、日本の観光が大きく前進したことの証左の一つととらえています。しかし日本の観光の現状は、需要縮小に直面する国内観光の構造転換、競合に対し見劣りがするインバウンド対策等課題山積であり、とても手放しで喜ぶことはできません。

今後、我々が目指す観光立国を実現して行くためには産官学一体となった取組みの充実強化が不可欠ですが、それと同時に、観光立国に向けた機運を高め、観光に対する社会的理解を深めることが重要です。草の根からの盛り上がりがないければ、大きな成果を生むことができないからです。こうした観点から、初代の観光庁長官として、関係者の連携を強化し、観光立国の機運醸成に努めたところですが、道半ばに終わっています。機運醸成、観光に対する理解と関心の深化には、多くの関係者が参画して、地道で息長い努力を重ねる必要があります。当協会は、まさにその一翼を担うものであり、微力ながらその一員として努力して参りたいと思っております。

「東京まるごとテーマパーク構想」を語る

前神奈川県知事・松沢成文氏

昨年の東京都知事選挙で、私は「観光振興が東京の経済ひいては日本経済にとって重要」と訴えた。衣食住がある程度満ち足りた今は、人々の関心は3 K（健康、環境、観光）に移り、なかでも観光が今後の成長分野であると思うからだ。

世界の主な都市で、外国からの観光客が格段に少ないのが東京。外国人を惹きつける魅力に乏しいことが、その原因の一つ。そこで、私は江戸城の天守閣再建と首都高速道路の地下トンネル化を提案している。江戸城は、いまでも海外の人たちが訪れる観光ポイントだが、天守閣が加わると一段と魅力が増すはず。

さらに私は、東京・お台場に、カジノを含めたI R（インテグレイテッド・リゾート）を作れば、海外からの観光客誘致の大きな戦力になるだろう。先進国は、ほとんどが作っているのです。

ソフト面では、家康が張り巡らせた水路を復活させ、水路観光を充実すればいい。水陸両用観光バスを走らせればよい。

「生麦事件の暗号」

神奈川県知事時代に取材、勉強したことを元に書いた本で、講談社から出版した（1575円）。薩摩の行列を横切った英国商人が殺害された事件だが、その後、薩英戦争の事後処理を進める中で、薩英同盟が成立さらには日英同盟につながっていく。歴史的に見て大きなポイントだった。歴史を学ばない若者に読んでもらいたい。

デマケに必要な地方観光行政とマスコミ

寺前 秀一・J N協会理事（加賀市長）

地方自治法は、県と市はその事務を処理するにあたって相互に競合しないことを原則にしています。納税者の立場から当然ですが、観光政策概念が曖昧ですから、京都府・京都市の拝観料課税問題のように論争が起きます。県と市の議員が共同で海外宣伝を行う様子がみられますが、税金が使われる以上は注意が必要です。さらに複雑なのが、一部事務組合行政です。加賀市が小松市等とともに参加している南加賀広域圏事務組合では、これまで基金20億円が拠出され、ふるさと振興事業を行ってきましたが、国においては役割が終了したものとします。

基金を自治体に戻さなければ埋蔵金との印象を待たれるものです。基金運用益を使用して、全国産業観光フォーラム事業に、組合が構成自治体とともに参加する原案が出されました。屋上屋的に産業観光を行うことは地上自治法上不適切であると主張しましたが、賛同が得られませんでした。管理者の指示で原案を提出することになりましたが、事務組合

観光立国セミナー

台湾に見る道教の祭り

浅野 春二・国學院大学教授

道教は日本では馴染みが薄い。だが、台湾では仏教の4倍近い信者が居て最大の宗教、その祭祀は盛大だ。筆者は、その台湾の道教の祭りに魅せられ、何度も現地を訪れ「台湾における道教儀礼の研究」（笠間書院）という550ページに及ぶ大著を出している。

宇宙の根源となるという『道』を拝む道教は、かつて中国本土では、仏教、儒教と並ぶ3大宗教で、老子、荘子に端を発する。中国の古い歴史小説には必ずと言っていいほど登場するが、戦争や共産党革命の影響で、本土より台湾で隆盛を極めている。

遣唐使が日本に道教思想を紹介しなかったのは、道教が中国皇帝の国教で、日本がその影響下に置かれることを恐れたからでは、と浅野教授は指摘する。

秘事といえる祭祀を、特別に許可をとって収めたビデオを教授が紹介してくれたが、見応えがあった。（第85回、2013年2月8日「観光立国セミナー」から）

第86回「観光立国セミナー」は、3月7日（木）で、講師は前神奈川県知事の松沢成文氏で「東京まるごとテーマパーク構想」～生麦事件からの横浜・東京の今・将来～を語った。（内容は、2面で紹介）

予告

第87回は4月26日（金）で「トルコと日本」（日本トルコ民間交流協会会長・石本寛治氏）。第88回は5月10日（金）、講師は東京都中央区副区長の吉田不曇氏。

JN協会主催の観光立国セミナーのこれまでの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存してあります。

議会側から管理者側で意見が統一されないものは受け取れないという対応が示され、閣議と同じく全会一致を見た議案のみ提出しました。この間の判断ミスが政治的暴走との印象を持たれてしまい、多数決を主導した能美市長の印象も損なわれました。

なお、一部地元支局の報道姿勢にマスコミの特徴が表れていました。市民にとって重要なサブスタンスである観光行政のデマケ論議は論評が一切なく、首長間の論争姿勢のみを面白おかしく取り上げました。その後行われた小松市長選挙投票日朝に、投票結果も出ていない段階で当選会場出席の問い合わせをし、当選後は固い握手をしたにもかかわらず、早めに会場を後にするとそれを記事にしていました。

しかし、読者がそれを面白く読む本質があるからマスコミもそれを報道するのです。ここにマスコミと観光が共通する本質である刺激とか他との違いといったものがあります。読者層がサブスタンスに興味を持てば、記者もしっかりそこを勉強せざるを得ないのです。（編集部注＝デマケとは、デマケーションの略、官庁でよく使われる用語で、業務分担を意味する）

★「長宗我部」

著者 長宗我部 友親

各地の話題

中世文学専攻の女子学生に人気のある武将は、長宗我部元親。秦の始皇帝に端を発するという長宗我部一族の2000年にわたる栄光と挫折を描いた歴史ロマンである。元親は四国を統一して天下をにらむが、関ヶ原で西軍に味方して敗北。明治維新になって家名再興を実現。

「家系に流れる血脈の忍従は、家名を残すことにあった」と元親の末弟、親房から17代目当主、友親氏の言。歴代当主たちの生き方が、ひとえに家名再興にあったということは、企業の在り方、生き方など、現代にも通じるものがある。

文春文庫（349ページ、686円 税別）

★ 「観光で日本を元気に」

（観光立国フォーラム・セミナー報告書VI）

J N協会がほぼ毎月開いている「観光立国セミナー」（座長・寺前秀一理事）と全国各地で随時開催している観光フォーラムの報告書VIが、このほど完成した。2012年3月から2013年1月までの10回分を収録している。

セミナーやフォーラムに参加できなかった方も、ご一読いただければと思います。事務局にご連絡くだされば差し上げます(無料)。

★ スカイツリーと水陸両用バス

昨年5月に開業した「東京スカイツリータウン」への来場者が、当初目標（2012年度2750万人）を大幅に上回り4500万人近くに達した模様。電波塔の展望台だけに限ってみると、これも予想を40%近く上回る約554万人になったという。東京ソラマチ、水族館、プラネタリウムなどの周辺施設も、人気を呼んだようだ。

今年からは、これに「水陸両用バス」が新しい戦力として加わる。3月17日からスカイツリーを起点としたコースも設定され、旧中川中心に周遊し始めた。料金は2800円で、予約が必要だが、新しい観光資源となるか？

城下町と観光 - 31

福井県・小浜城

京極高次が築城、大坂の陣では和議に尽力
京極氏転封後は酒井氏が入城

J N協会参与 長宗我部 友親

関ヶ原の戦いの功により、近江国大津の城主であった京極高次が、徳川家康から若狭国を与えられる。高次は、丹羽長秀らの居城であった後瀬山城にまず入ったが、中世に造られたこの城が山上にあり不便なため、平野部で海に面した小浜に、新たに城を造ることにして、その地に小浜藩を立藩した。京極高次の正室はお市の方の娘、淀の妹の初である。

京極一族は、もともと琵琶湖の北方「北近江」の守護の家柄で、関ヶ原の戦いでは家康側についた。このため当時の高次の居城、大津城は西軍に攻められ落城した。しかし、家康は1万を超える西軍を足止めしたこの高次の戦いを評価して、高次に若狭一国を与える。

小浜城は、1601年に京極高次が築城に着手したが、高次は完成を待たず慶長14年（1609年）に亡くなり、その子の忠高が、小浜城の築城を続ける。そして、忠高は大坂の陣では、母親の常高院（初）とともに家康と淀君の間に入り、

和議に尽力する。その功もあって、忠高は寛永11年（1636年）出雲国などを加増され、出雲国松江に転封される。

京極氏の後には武蔵国川越から酒井忠勝が入り、そのまま酒井氏が小浜城主として、明治を迎える。小浜城は、酒井忠高が引き継ぎ、二条城の様式を取り入れて本丸、天守閣を造営し、酒井氏の代でようやく完成する。

忠勝は、三代将軍となった徳川家光の信任が篤く、大老に就任するなど幕閣の中枢として活躍した。慶安4年（1651年）に家光が没した後、由比小雪らによる慶安の変が起こるが、これは未然に防がれる。

忠勝は天守閣を完成させるとともに、小浜の城下町の整備も進めた。小浜の町は、若狭湾に面していて、日本海に流れ込む南川と北川に挟まれた中洲に位置する。海辺から少し入ったところに、かつての廓町（写真右）があり、そこが水上勉の小説「波影」の舞台にもなっている。



新装なった本殿(写真提供 島根県・出雲大社)

～120センチで防水性に優れ、大量64万枚も重ねて丁寧に竹釘で固定する。屋根上部を飾る千木や勝男木（鯉木）を覆う銅板は松ヤニにエゴマ油、石灰、鉛を混ぜた「ちゃん（瀝青）塗り」と呼ぶ塗装が施される。修造の総事業費は80億円。

10月は伊勢神宮で20年に一度の遷宮があり、出雲と伊勢の同年遷宮で盛り上がる。島根県は今秋「古代歴史文化賞」を創設し優れた書籍を選び、大賞と、古代に縁ある三重、奈良、宮崎、島根4県の地域賞で表彰する。大社東隣の島根県立古代出雲歴史博物館は6月16日まで出雲大社展を開催中で、考古資料や古文書など展示し遷宮や歴史を紹介している。会期中4月16日（火）と5月21日（火）は休館。（文 林 莊祐）

を出しています。日本への観光客を誘致するようにこれから努力をしていきます。
（聞き手 経済ジャーナリスト 阿部 和義）

「鉄道」と「観光」⑦

「鉄道と観光の歩み」—2—（大正時代）

J N協会副理事長 須田 寛（J R東海相談役）

明治39年の鉄道国有法で国内の幹線鉄道は国鉄に統一されたが大正時代には鉄道省がその基本的施策のなかに観光施策と位置づけ制度として定着させていく時代となった。

大正2年には鉄道営業制度を刷新、観光運賃制度ともいうべきものを制定した。団体割引制度を確立ししかも観光客を念頭に季節によって割引率に差を設ける今日の制度に近いものとなった。割引率も大きくなり30%～50%と幅を広げた。又大正天皇即位の礼に因み大礼記念割引回遊きっぷ等の周遊券の発売、スキースケート割引等観光計画きっぷを相次いで設定していった。又シベリア鉄道との連絡きっぷを拡充「東半球周遊券」「世界周遊券」の発売など国際観光きっぷの発売も制度化され本格的にスタートした。この国際観光きっぷは今日のジャパンレールパスと同様、主として外国人対象に発売され国際観光客増加に貢献したという。各地の観光ホテルの増設も進められた。

さらに大正9年には横浜港駅、13年には神戸港駅を開設、外国航路発着日には東京と京都から直通のポートレインを運転、両駅から日光、京都等への外国人観光団の専用臨時列車も運転された。東京駅大正3年、京都駅大正10年が新改築され駅内にホテル、食堂、JTB営業所等も設け、観光ターミナルとしての機能を果たすべく整備された。今日では一般となった乗車券のJTBによる市中や海外での発券等も大正14年から本格化した。しかし大正3年に勃発した第一次世界大戦とそれ続くロシア革命等の国際情勢の悪化により折角はじまった国際観光が一時的に又地域によって頓挫したのは残念なことであった。

このように大正時代は15年という短い期間であったが、国際的観光鉄道に発展しようとする当時の国鉄（一部大手民鉄も）の意欲と努力が感じられる時代となった。そして観光が鉄道の営業活動の中にシステムとして定着するという鉄道と観光にとっても大きい前進の時代といえよう。

東北観光博から「旅・東北へ」にバトンタッチ

昨年3月18日から東北支援を目指して開催されていた「東北観光博」は、この3月末をもって終了した。東北6県を28のゾーンに分け実施、述べ9万人が訪れ、900億円近い経済効果が上がったとされる。各ゾーンへの入り込み客の実態は、まだ判明していないが、期待が大きかっただけにこの数字はいかがなものだろうか？

東北6県、観光庁は、「東北観光博」につなげる措置として「旅・東北へ」キャンペーンをスタートさせた。サイトは「http://www.touhokukanko.jp」。ぜひ、覗いて！と。

NEW SPOT

in japan 37

出雲の大遷宮

縁結びで知られる出雲大社は5月10日、大遷宮の儀式を60年ぶりに迎える。日没後の午後7時から本殿遷座祭が行われ、修造（修復）のため5年前仮本殿へ移った大國主大神のご神体が新装の本殿に戻られる。約1カ月、奉祝神事や神楽、雅楽、舞、能・狂言、神輿などで賑わう。

国宝の本殿は江戸中期1744（延享元）年に造営され1809（文化6）、1881（明治14）、1953（昭和28）年と、ほぼ60～70年ごとに修造を重ねてきた。

修造は建て替えでなく主に大屋根の檜皮の葺き替えや老朽部分を修復する。木造建築を維持し、清らかに神の力を甦らせるという。広さ180坪の大屋根は下部の軒先で厚さ1寸もあり重厚な雰囲気醸し出す。檜皮は1枚の長さが75

アメリカこぼれ話 ー 24

「カウボーイの敵―鉄条網」

J N協会理事・北村嵩（松陰大学教授）

テキサスの牧場からミズーリやカンザスなど南西部の鉄道駅まで牛を運ぶカーボーイが活躍したのは、南北戦争終了後の1866年頃から南部に鉄道が敷設された1880年代までの約20年間であった。テキサスでは1頭4ドルの牛が食料不足のシカゴでは40ドルで売れることを知った牧場主が、南北戦争敗戦後で職を探している男たちをカーボーイとして雇い、1000マイル以上も北のカンザスの鉄道町まで移動させるロングドライブが始まった。

1000頭近い牛に、広々としたオープンレンジで草を食べさせながら移動するロングドライブでは、パファローの群れと先住民のインディアンがカーボーイにとっては、邪魔となり、その排除には軍も手を貸した。牛の暴走や牛泥棒にも手を焼いたが、最も深刻なものは農民との衝突であった。

当時、政府が鉄道会社に払い下げた土地が多くに人に売りに出され、それを買った農民が大平原を開墾して、自分の家畜を飼って生活し始めていた。そこに大量の牛が通り過ぎ、畑の作物を食い荒らし、豚や羊を混乱させるので、自衛のために、領地の境界に柵を作ることを考えた。しかし乾燥した大地には家を作る木さえなく、日干し煉瓦を使わなくてはならない状況であったので、広範囲に柵をつくる材料がなかった。それを解決したのが、ジョセフ・グリッデンの発明した鉄条網であった。

組み合わせた針金の途中に等間隔で棘状の短い針金を咬ませてある鉄条網は、1867年頃から試験的に使用され、1874年にグリッデンが特許をとって量産を始めた。農地の囲いとして鉄条網が使われるようになると、放牧地が狭くなりカーボーイたちによるロングドライブが極めて困難になった。家畜の牛をひどく傷つけるので「悪魔のロープ」と呼ばれた鉄条網を巡って、牧場主と農民たちとの間で激しい戦闘「レンジウォー」が繰り返され、時には殺し合いも起きたが、最終的には農民側が、鉄条網を勝手に切ると重罪になるという法律の制定を勝ち取った。厳寒の冬や、熱波と旱魃の夏などで牛が激減した上に、1880年代には南部にも鉄道が通り、長距離を運ぶ必要がなくなってカーボーイの時代は終わった。

円安効果か！訪日外国人急増へ

韓国はじめアジア地域増え、欧米系も増加

J N T O（日本政府観光局）によると今年2月の訪日外国人は、約73万人で前年比33.1％と急増、2月としては初の70万人超え、となった。なかでも、台湾、香港、マレーシア、タイ、ベトナム、インドが史上最高（2月）を更新、韓国も40％近い伸びを見せた。竹島問題で振るわない時期もあったが、パク新大統領の誕生で日韓関係の改善に期待がかかるという要素もあるが、何よりもピークに比べ30％近い円安効果が大きいとみられている。アジア諸国の所得増もプラスだ。

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、 団体会員(1口5万円)
東京都渋谷区代々木1ー58ー13小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会(電話03ー5304ー9500)

シドニーの牡蠣

小田急電鉄(株) 顧問 利光 國夫

もう30年近い昔になるが、私が小田急電鉄のレジャー事業部長をしていたとき、向ヶ丘遊園地でオーストラリアのロデオショウをやらないかという話が持ち込まれた。ロデオと言えばアメリカのそれが頭に浮かぶが、オーストラリアのロデオと言うのも趣向が変わって面白そうだと思い早速検討を指示したところ、オーストラリア側の責任者からは是非現地に来て欲しいと要望され出張することになった。

ロデオをやっている所は幾つかあるのだろうがこの話はケアンズのロデオ関係者からだったのでまずはケアンズに行き、合わせてゴールドコーストとシドニーも訪ねることにした。

出張の時期は6月で南半球は冬に向かう頃だがケアンズに着いてみると予想を上回る強烈な日差しと高温で、この地方は皮膚がんが多いと聞いていたが成る程と納得した。視察目的のロデオはなかなかのものだが、矢張り広大な舞台があってこそのもので、馬の検疫問題などもあってこのイベントは実現しなかった。しかし、余禄のオーストラリア旅行は楽しい思い出となった。最後の訪問地シドニーは熱帯とは違ってヨーロッパの都市の様な雰囲気が魅力的だったが、夕食で注文した生牡蠣が素晴らしい美味しさで大皿に一杯の量とその値段の安さは日本では考えられないもので、結局これが今でも一番印象に残っているのは我ながら情無い次第である。

中国はいぜん不振、2月は唯一のマイナス国

一方、かつて倍増近い訪日客がみられた中国は、昨年の尖閣諸島国有化への反発で、昨年10月以降激減、今年2月も前年比ー2.1％（1、2月計でもー30.6％）と唯一訪日客が減った国となった。

アジア勢が日本を目指す傾向は、各国経済の発展と円安が続く限り増える見通しだし、オーストラリア、カナダからも大きく伸ばしている。観光庁が目指す年間1000万人の達成は十分可能とみられる。

会員の投稿を歓迎～情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2013年05月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は2013年05月25日、投稿締め切りは、05月15日です。

昇仙峡など甲府近郊の観光地を見る

「観光立国フォーラムin甲府」に関連して

J N協会理事 堤 るり

3月19日開いた「観光立国フォーラムin甲府」の翌日、主催者の「甲府駅北口まちづくり委員会」の皆さんの案内で、甲府近郊の観光地を見て回った。

朝10時甲府駅北口を出発。日本観光地百選 溪谷の部で1位の昇仙峡(写真左)に向けて車を走らせる。年間350万人は訪れると言う景勝地だけあり、秋の紅葉シーズン等は渋滞が発生するため、道路拡張を順次進めている。

弘法大師が開湯した湯村温泉を右手に昇仙峡に入るまで車で40分。2キロ程の溪谷を、認定を受けた昇仙峡マイスターの雨宮さんのガイドで歩く。清流若葉のなか、結構きつい階段もあり。「階段上がってのぼると天国」との短冊に納得して深呼吸。頂上の荒川ダム駐車場前の「大黒屋」で手打ちそばで昼食(写真右欄)。山菜(甘草、ゼンマイおひたし、ふきのとうトーフ)は絶品でした。甲府駅に戻る途中の和田峠から見た、富士を背景にした甲府盆地の夜景は、各雑誌で上位に選ばれていると言う。この日は昼間なので絶景は見られなかったが。

C O L U M N

駅的不正乗車捕物帖

今から半世紀前、ある私鉄駅で見習い駅員をやっていた。今日賑わっている駅施設や周辺環境を考えると、庶民的でおおらかだった当時の時代風景には今昔の感を憶える。

あの時代は豪雨になっても強風が吹いても新人駅員は黙々と改札口に立ち続け、新人なりに正義感に燃え不正乗車は一人たりとも見逃すまいと、乗降客の挙動に必死に目を凝らしていた。時には酔っぱらいに絡まれたり、難癖をつける乗客に往生しながらも少しずつ経験を積み重ねて、社会人としての作法を身につけていった。だが、その一方でストレスが溜まることも多かった。

普段からストレス解消と退屈しのぎにはどうしたら良いか頭を悩ませていた。その頃制止の手を振り切って逃げる乗客が結構多かった。熟慮の末不正乗車客を槍玉にあげることを思いついた。ある時逃げようとする乗客に思わず大声で「ドロボー！」と叫んで、思い通りその乗客をすくませてはみたが、駅前交番のお巡りから「ドロボーとは言い過ぎ」とお目玉を食らった。次には軽快な運動靴に履き替えて追いかけたが、時にカモシカ少年もいて逃げきられ、地団駄を踏んだものだった。

そんな時最も効果的だったのは、ラグビーで磨いた得意技を活かすことだった。改札口から逃げられた瞬間すぐ後を追ひ、背後からタックルして見事「お客様」を仕留めた。相手もまさかタックルまでされようとは思ってもみず、倒されたまま観念するよりほかなかった。これが2度、3度と成功した。そのうちにこの駅には元気のいい駅員がいると噂になり、中にはラグビーをやっていたんですかと話しかけられて照れくさい思いをしたことも、今となっては懐かしい青春時代の一コマである。

それが今や都心の駅では利用客も増えてIT化が進む一方で、改札口やプラットフォームに駅員の姿を見かけることも少なくなった。駅員と地域住民との会話と交流の機会も減って、駅を出会いと交流の場にしようとアピールする試みに反して、駅周辺にはただ騒がしいだけの無機質な空気が漂い、時代の流れとは言え、あの牧歌的だった時代を振り返ると何とも寂寞の感は拭いきれない。（近藤 節夫）



電車で行く際は、駅前でレンタサイクル（電動自転車）を利用すると昇仙峡めぐりも充分楽しめる。

町に戻って、北口に移築復元された明治初期

の洋風手法が表現された、藤村記念館とその並びにオープンする「甲州夢小路」を見学。江戸時代城下町として栄えた甲府は明治、大正、昭和と経済的に発展した。その甲府が輝いていた時代を再現したのが「甲州夢小路」。江戸・明治時代に、時を告げた「時の鐘」が再現され、アンティークジュエリー美術館、古民家を再生した郷土料理店など、小江戸情緒が息づく街並みとなっている。

準備中の蔵の中をのぞいたら、タイムスリップしたような気分になり、ワクワクしてきた。ちょっとおしゃれに甲州ワインを傾けながら、甲州ビーフ等で食欲がそられる空間になっている。

駆け足で甲府を巡ったが、観光で訪れるなら、昇仙峡を散策し、湯村温泉に宿泊、市内観光をたっぷり楽しみ、旅のめめはレトロあふれる「甲州夢小路で」乾杯というコースはいかがでしょうか？

（問合せ：甲府駅北口まちづくり委員会 TEL055-252-8797）